

公表

事業所における自己評価結果

事業所名		仙台市なかよし学園					公表日	令和8年3月18日
		チェック項目	はい	いいえ	工夫している点	課題や改善すべき点		
環境・体制整備	1	利用定員が発達支援室等のスペースとの関係で適切であるか。	17	0	・少しでも広くスペースを使えるように整理整頓している。	・医療的ケア児の増加に伴い、スペースが狭く感じることもある。クラスを決める際に配慮が必要である。		
	2	利用定員やこどもの状態等に対して、職員の配置数は適切であるか。	15	2	・散歩などの時にはしっかりとついて行けることがよいと思う。 ・職員の休みが出ても職員配置を調整し、安全に療育できるようにしている。	・人数としては適切であるが、保護者からはSTPTなどの配置を求める声が上がっている。		
	3	生活空間は、こどもにわかりやすく構造化された環境になっているか。また、事業所の設備等は、障害の特性に応じ、バリアフリー化や情報伝達等、環境上の配慮が適切になされているか。	15	2		・こどもにとってわかりやすいように、絵カードや写真などの視覚支援を取り入れているが、こどもによってはそれでも理解が難しい場合もあり、それぞれの発達段階に合わせた支援が必要である。		
	4	生活空間は、清潔で、心地よく過ごせる環境になっているか。また、こども達の活動に合わせた空間となっているか。	15	2	・トイレの水や手洗い場が二オイがある時がある。掃除の時に水を多めに流すなどの対応している。 ・座位保持椅子や起立補装具、歩行器などを使用する児が多いクラスは、一番広い保育室を使用している。	・日々清掃や消毒を徹底しているが、設備上対応が難しい場合は業者に依頼している。		
	5	必要に応じて、こどもが個別の部屋や場所を使用することが認められる環境になっているか。	17	0	・子どもの隊長や様子に合わせて個別対応できるようなスペースを確保している。 ・導尿や流腸などの医療的ケアを安全に行えるように個別の場所を使用、かつ緊急時はすぐに周囲へ声をかけられるように扉を開放している。	・サンルームやフリーの保育室を活用するようにしているが、全体把握が難しくなる場合がある。		
業務改善	6	業務改善を進めるための PDCA サイクル(目標設定と振り返り)に、広く職員が参画しているか。	15	2	・日々改善点を話し合っている。	・主任が中心となって業務改善を図っている。特に不満は出ていないが、トップダウンになりがちである。		
	7	保護者向け評価表により、保護者等の意向等を把握する機会を設けており、その内容を業務改善につなげているか。	17	0	・実施している。	・対応可能なことであれば取り入れていくが、看護師やPTSTの配置等に関しては難しさもある。		
	8	職員の意見等を把握する機会を設けており、その内容を業務改善につなげているか。	17	0	・日々のミーティングで意見を求めている。	・主任が中心となって業務改善を図っている。特に不満は出ていないが、トップダウンになりがちである。		
	9	第三者による外部評価を行い、評価結果を業務改善につなげているか。	16	1	・実施している。			
	10	職員の資質の向上を図るために、研修を受講する機会や法人内等で研修を開催する機会が確保されているか。	16	1	・職員が何を学びたいかアンケートを取った上で研修をすることもあった。 ・研修についてのチラシの回覧、掲示が行われている。	・様々な研修を受ける機会を設けているが、積極的に参加する職員とそうではない職員に分かれている。		
	11	適切に支援プログラムが作成、公表されているか。	17	0	・実施している。			
	12	個々のこどもに対してアセスメントを適切に行い、こどもと保護者のニーズや課題を客観的に分析した上で、児童発達支援計画を作成しているか。	17	0	・しっかりと話し合っているとよいと思う。全体で把握できている。	・職員によってニーズ整理や課題の分析のレベルがまちまちである。		
	13	児童発達支援計画を作成する際には、児童発達支援管理責任者だけでなく、こどもの支援に関わる職員が共通理解の下で、こどもの最善の利益を考慮した検討が行われているか。	17	0	・実施している。	・基本的には全職員参加だが、自分のクラス以外の児童に関しては意見が出にくい。		
	14	児童発達支援計画が職員間に共有され、計画に沿った支援が行われているか。	17	0	・実施している。			
	15	こどもの適応行動の状況を、標準化されたツールを用いたフォーマルなアセスメントや、日々の行動観察なども含むインフォーマルなアセスメントを使用する等により確認しているか。	16	1	・市連協共通のアセスメントを活用している。	・これまで使用していたアセスメントとは異なるため、まだ使い慣れていない。		

適切な支援の提供	16	児童発達支援計画には、児童発達支援ガイドラインの「児童発達支援の提供すべき支援」の「本人支援」、「家族支援」、「移行支援」及び「地域支援・地域連携」のねらい及び支援内容も踏まえながら、こどもの支援に必要な項目が適切に設定され、その上で、具体的な支援内容が設定されているか。	17	0	・実施している。	・職員によっては支援内容が曖昧になることがある。
	17	活動プログラムの立案をチームで行っているか。	17	0	・実施している。	
	18	活動プログラムが固定化しないよう工夫しているか。	17	0	・工夫しているが、似たあそびを行うことが多い時もあるかもしれない。 ・担当が保育計画を作成し、主任・園長が確認して内容を検討している。	
	19	こどもの状況に応じて、個別活動と集団活動を適宜組み合わせる児童発達支援計画を作成し、支援が行われているか。	17	0		
	20	支援開始前には職員間で必ず打合せを行い、その日行われる支援の内容や役割分担について確認し、チームで連携して支援を行っているか。	15	2	・必ずではない ・バス添乗などでチーム全員で打ち合わせをする時が難しい場合もある。 ・前日にあそびのねらいを話し合い、時間内にいない職員へ共有するためにノートに記録している。	・バス添乗等により、支援開始前に共有できないこともあるが、その場合は前日に打ち合わせするようにしている。
	21	支援終了後には、職員間で必ず打合せを行い、その日行われた支援の振り返りを行い、気付いた点等を共有しているか。	16	1	・必ずではない	・ミーティングでは共有しているが、クラス間での振り返りは実施できないこともある。
	22	日々の支援に関して記録をとることを徹底し、支援の検証・改善につなげているか。	17	0	・話し合い工夫できるように努力している。	
23	定期的にモニタリングを行い、児童発達支援計画の見直しの必要性を判断し、適切な見直しを行っているか。	17	0	・実施している。		
関係機関や保護者との連携	24	障害児相談支援事業所のサービス担当者会議や関係機関との会議に、そのこどもの状況をよく理解した者が参画しているか。	17	0	・実施している。	
	25	地域の保健、医療（主治医や協力医療機関等）、障害福祉、保育、教育等の関係機関と連携して支援を行う体制を整えているか。	15	2	・実施している。	
	26	併行利用や移行に向けた支援を行うなど、インクルージョン推進の観点から支援を行っているか。また、その際、保育所や認定こども園、幼稚園、特別支援学校(幼稚部)等との間で、支援内容等の情報共有と相互理解を図っているか。	15	2	・進路先との情報共有を実施している。 ・併行利用に関しては当事業所で決定できることではないが、移行に関しては実施している。	
	27	就学時の移行の際には、小学校や特別支援学校(小学部)との間で、支援内容等の情報共有と相互理解を図っているか。	17	0	・実施している。	
	28	(28～30は、センターのみ回答) 地域の他の児童発達支援センターや障害児通所支援事業所等と連携を図り、地域全体の質の向上に資する取組等を行っているか。	17	0	・実施している。	
	29	質の向上を図るため、積極的に専門家や専門機関等から助言を受けたり、職員を外部研修に参加させているか。	16	1	・実施している。	
	30	(自立支援)協議会こども部会や地域の子ども・子育て会議等へ積極的に参加しているか。	17	0	・実施している。	
31	(31は、事業所のみ回答) 地域の児童発達支援センターとの連携を図り、必要に応じてスーパーバイズや助言等を受ける機会を設けているか。					
32	保育所や認定こども園、幼稚園等との交流や、地域の中で他のこどもと活動する機会があるか。	16	1	・地域相談員が訪問し、職員会議や日々のミーティングで共有している。	・コロナ禍以降実施する機会は激減したが、地域のイベントに参加し交流を図るようにしている。	
33	日頃からこどもの状況を保護者と伝え合い、こどもの発達の状況や課題について共通理解を持っているか。	17	0	・直接話したいことはバスの添乗して保護者と直接やりとりするようにしている。	・単独通園であるため、保護者と直接やりとりできる機会が少ない。 ・また、保護者の悩みにすぐに気が付けないことがある。	

	34	家族の対応力の向上を図る観点から、家族に対して家族支援プログラム(ペアレント・トレーニング等)や家族等の参加できる研修の機会や情報提供等を行っているか。	17	0	・保護者研修会を行っている。 ・研修場所を提供している。	・研修を案内しても参加しない保護者も多い。 案内の仕方を検討する必要がある。
保 護 者 へ の 説 明 等	35	運営規程、支援プログラム、利用者負担等について丁寧な説明を行っているか。	17	0	・途中入園児へも延長から説明している。	・説明しているが、忘れられていることもある。
	36	児童発達支援計画を作成する際には、子どもや保護者の意思の尊重、子どもの最善の利益の優先考慮の観点を踏まえて、子どもや家族の意向を確認する機会を設けているか。	17	0	・実施している。	・保護者の意向と子どもの発達がかけ離れていることがあり、そのすり合わせが難しいことがある。
	37	「児童発達支援計画」を示しながら支援内容の説明を行い、保護者から児童発達支援計画の同意を得ているか。	17	0	・実施している。	
	38	定期的に、家族等からの子育ての悩み等に対する相談に適切に応じ、面談や必要な助言と支援を行っているか。	17	0	・実施している。	・単独通園であるため、保護者と直接やりとりできる機会が少ない。 ・また、保護者の悩みにすぐに気が付けないことがある。
	39	父母の会の活動を支援することや、保護者会等を開催する等により、保護者同士で交流する機会を設ける等の支援をしているか。また、きょうだい同士で交流する機会を設ける等の支援をしているか。	17	0	・きょうだい児の行事への参加を受け入れている。	
	40	子どもや保護者からの相談や申入れについて、対応の体制を整備するとともに、子どもや保護者に周知し、相談や申入れがあった場合に迅速かつ適切に対応しているか。	17	0	・実施している。	・申し入れがない場合、保護者の悩みに気が付かず対応が遅れることがある。
	41	定期的に通信等を発行することや、HPやSNS等を活用することにより、活動概要や行事予定、連絡体制等の情報を子どもや保護者に対して発信しているか。	16	1	・実施している。	
	42	個人情報の取扱いに十分留意しているか。	17	0	・実施している。	
	43	障害のある子どもや保護者との意思の疎通や情報伝達のための配慮をしているか。	17	0	・実施している。	
	44	事業所の行事に地域住民を招待する等、地域に開かれた事業運営を図っているか。	2	15	・コロナ禍以降開催していない。 ・地域のイベントなどに参加できたのが良かった。 ・感染症などの様々なリスクの観点から招待することは難しいが、地域の公園に行ったりイベントに参加してみるなどしました。 ・散歩に出かけた時に子どもたちと挨拶している。	・感染症によるリスクが高い児童もいるため、なかなか実施できていない。全体での参加は困難でも、参加可能な児やイベントを選んてい実施していきたい。
非 常 時 等 の 対 応	45	事故防止マニュアル、緊急時対応マニュアル、防犯マニュアル、感染症対応マニュアル等を策定し、職員や家族等に周知するとともに、発生を想定した訓練を実施しているか。	17	0	・実施している。	・すべてのマニュアルを周知することが難しく、簡単な説明になっている。
	46	業務継続計画（BCP）を策定するとともに、非常災害の発生に備え、定期的に避難、救出その他必要な訓練を行っているか。	17	0	・すごくしっかり取り組んでいる。 ・訓練後振り返りを行っている。	
	47	事前に、服薬や予防接種、てんかん発作等の子どもの状況を確認しているか。	17	0	・実施している。変更があった場合も保護者と迅速に確認している。	
	48	食物アレルギーのある子どもについて、医師の指示書に基づく対応がされているか。	17	0	・実施している。 ・給食時の対応も徹底している。	
	49	安全計画を作成し、安全管理に必要な研修や訓練、その他必要な措置を講じる等、安全管理が十分された中で支援が行われているか。	17	0	・緊急時対応訓練を行っている。	
	50	子どもの安全確保に関して、家族等との連携が図られるよう、安全計画に基づく取組内容について、家族等へ周知しているか。	17	0	・実施している。	
	51	ヒヤリハットを事業所内で共有し、再発防止に向けた方策について検討をしているか。	17	0	・記録に残して回覧し、非常勤職員への周知を行っている。 ・必ず毎日実施している。	
	52	虐待を防止するため、職員の研修機会を確保する等、適切な対応をしているか。	17	0	・実施している。	

53	どのような場合にやむを得ず身体拘束を行うかについて、組織的に決定し、こどもや保護者に事前に十分に説明し了解を得た上で、児童発達支援計画に記載しているか。	17	0	・実施している。	
----	--	----	---	----------	--